

特集2 平成26年4月15日に桐生市内で発生した山火事について

平成26年4月15日、桐生市内において県内過去最大規模となる山火事が発生しました。

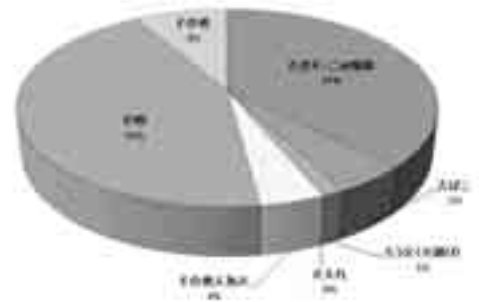
延焼範囲は群馬・栃木の両県にまたがり、焼失した森林は群馬県だけでも約190ha、栃木県側とあわせて約260haもの貴重な森林が被害を受け森林内の動物や植物に影響がありました。

山火事後の森林は災害防止や水源かん養などの公益的機能が低下するため、できる限り早期に復旧できるよう、県では市や関係機関等と連携して山火事発生後の森林の調査や今後の復旧対策について検討を行っています。

この山火事の出火原因は特定できていませんが、県内の山火事の原因はほとんどが火の取扱いの際の不注意などによる人為的なものです。(グラフ参照)

そのため、県では県民の皆様への周知・啓発活動や森林パトロールなどの山火事予防対策についても今後取組を強化し、発生予防に努めていきます。

図1-1-1 県内の山火事の出火原因(平成21年~25年)



延焼中の森林

地表の落葉や下層の草・低木類から燃え広がり、樹木に燃えうつっていく。消火活動は困難で、地上からの消火は限定的なため、ヘリコプターからの散水が行われた。

火災後の森林

地表の植生が失われ、表土が露出。焼け焦げた樹木は次第に枯れてゆき、根系による土壌保全効果も低下するため、集中豪雨などによる表土流出や土砂崩壊など災害発生の恐れが高まる。



延焼中の森林



火災後の森林